

【事例紹介】

大学教職員のための日本語講座

－上智大学公開プログラムについて－

Introduction of Japanese Language Class for University Faculty and Staff : On Sophia University Extension Program

上智大学公開学習センター長 柴野 京子

SHIBANO Kyoko

(Director, Center for Extension Programs, Sophia University)

キーワード：日本語教育、公開講座、FD・SD

はじめに

上智大学の公開講座、ソフィア・コミュニティカレッジでは、2015年から秋期集中講座として「大学教職員のための日本語 Japanese for Faculty and Staff」を開講しています。外国人向けの日本語教育と社会人教育は、いずれも本学が長年とりくんできたテーマですが、2014年、文部科学省のスーパーグローバル大学創生支援事業（グローバル化牽引型）に採択されたのを機に、新たなプログラムとしてこの講座が企画されました。本稿ではその歴史的背景とともに、プログラムの概要をご紹介します。

1. 上智の日本語教育と公開講座

上智大学で日本語が正規のカリキュラムに取り入れられたのは、1949年設置の国際部(International Division)においてでした。国際部はのちの比較文化学部、現在の国際教養学部の前身で、当時としては珍しく、英語ベースで講義が行われていたことが最大の特徴です。設置にあたっては、英文学科のアロイシャス・ミラー教授の尽力がありましたが、そもそものはじまりは、占領統治下で同教授が開催した英語の公開講座でした。

上智大学は、1913年の建学当初から一般市民への大学開放を理念として重んじていました。実際に開校より一足早く、附属の独英夜学校がスタートしているほどですが、その後も100年あまりにわたって、さまざまな形での一般向けスクールが開かれています。中には、外国語専修学校や職業人養成

の夜学である専門部（経済科・商科・法科・新聞学科）など、のちに学部昇格したものも少なくありません。また1937年には、大学用地購入時から残る木造の洋館（旧高島子爵邸）を「クルトゥルハイム（＝文化の館）」と名付け、文字どおり文化教養の拠点として講座を実施しました。こうした一連の活動は、戦後、新たな局面を迎えることとなります。ミラー教授の英語講座もそのひとつでした。

2. 占領下の在日外国人教育プログラム

終戦の翌年に始まった新しい公開講座は、開講式（プレナリーセッション）、特別講座、教養文化講座（語学など）の3つのプログラムで構成されました。第1回目の開講式には極東国際軍事裁判所首席判事のJ・ヒギンスらが登壇し、350名を集めたと記録されています。特別講座の講師にも、東京裁判を担当したキーナン検事やGHQ関係者が名を連ね、大学と占領軍との間に深い協力関係があったことがわかります。

英語講座の運営もまた、占領軍関係者のボランティアに多くを拠っていたようですが、専門家による英語でのレクチャーは、彼ら自身やその家族にも好評で、日本人のみならず多くの外国人を集めることにもなったのです。

そうした中で、在日外国人のための高等教育を望む声が高まり、アメリカ在郷軍人局から奨学金を受けられるプログラムとして整備したのが国際部でした。国際部は夜学でしたが、カリキュラムは北米の大学水準を満たすもので、卒業後はアメリカの学位が認定されるため、とりわけ日本の占領統治やのちの朝鮮戦争に携わった若い兵士たちには、大事な機会提供になったと思われます。開講当時の登録者は104名でした。

当時のBulletinをみると、国際部に基礎1クラスの日本語科目が記されています。日本語の授業は年を追うごとに科目数がふえて、1956年には入門から上級まで4クラスが整いました。1975年に外国語学部日本語・日本文化学科が設置されると国際部は廃止され、比較文化学部を経て2006年に国際教養学部（Faculty of Liberal Arts）に改組されたのは前述のとおりです。

このように、本学には早い時期から外国人就学者をキャンパスに迎えてきた経緯があり、そのための日本語教育が行われてきました。現在、日本語の語学科目は、他言語と同じく言語教育研究センターが統括し、入門からアカデミック、ビジネス、和英翻訳に至るまで、日本語教育の専門家による幅広いプログラムが用意されています。

さらに加えるなら、1970年代半ばにピタウ学長のリーダーシップで公開講座の充実がはかられ、組織とプログラムが統合されました。このとき、ソフィア・コミュニティカレッジという名称が生まれるとともに、社会人教育と留学関係事務を担当する「外事部」がつけられています。つまり本学にとって、教育研究の国際化と社会人教育とは、語学を結節点として常に強く結びついていたといえるでしょう。

3. ソフィア・コミュニティカレッジの日本語講座

現在のソフィア・コミュニティカレッジは、やはり語学講座が11言語、約100コースと数も種類も多めですが、ほかにも教養実務講座（約40コース）、免許法認定の夏期神学講座、大阪サテライトキャンパス特別講座など、いくつかのプログラムを組み合わせで運用しています。今年度からは、国際公務員を目指す社会人・学生を対象に、「国際公務員養成英語コース」と「国際公務員養成セミナー」、ニューヨークの国連で行う実務型の夏期集中研修「国際公務員をめざして」を、国際協力人材育成センターとの連携で開始しました。

日本語講座については、専任教員にコーディネーターになってもらい、毎回プログラムと講師を確認してラインナップを決定しますが、2017年度は春・秋それぞれ5コースの開設となりました。過去3期のコース受講者を見ても、受講者数は1クラスあたり平均10名前後、男女比はほぼ半々で、年代は30代がもっとも多く、20代、40代がそれに続いています。3割がリピーターです。受講者の年代が若いのはソフィア・コミュニティカレッジ全般の特徴で、キャンパスが都心にあること、開講時間が夜間中心であることから、シニア層よりビジネスパーソンが多く受講される傾向があります。

◆ソフィア・コミュニティカレッジ日本語講座ラインナップ（2017年度）

【春秋共通】

- ・日本語初級 Essential grammar for meaningful communication in Japanese
- ・日本語で話す自信をつけよう Establish Confidence in Speaking Japanese! 初中級

【春期】

- ・日本、日本語まるごと学ぼう、話そう！ All About Japan & Japanese 中級
- ・（集中講座）日本語入門 Beginners' Japanese: Learn to communicate in 8 weeks
- ・（集中講座）きちんと伝える日本語 Japanese Conversation on General Topics 初中級

【秋期】

- ・Modern Japan in Modern Japanese 中級
- ・（集中講座）Beginners' Japanese: Learn to communicate in 8 weeks
- ・（集中講座）大学教職員のための日本語 Japanese for Faculty and Staff

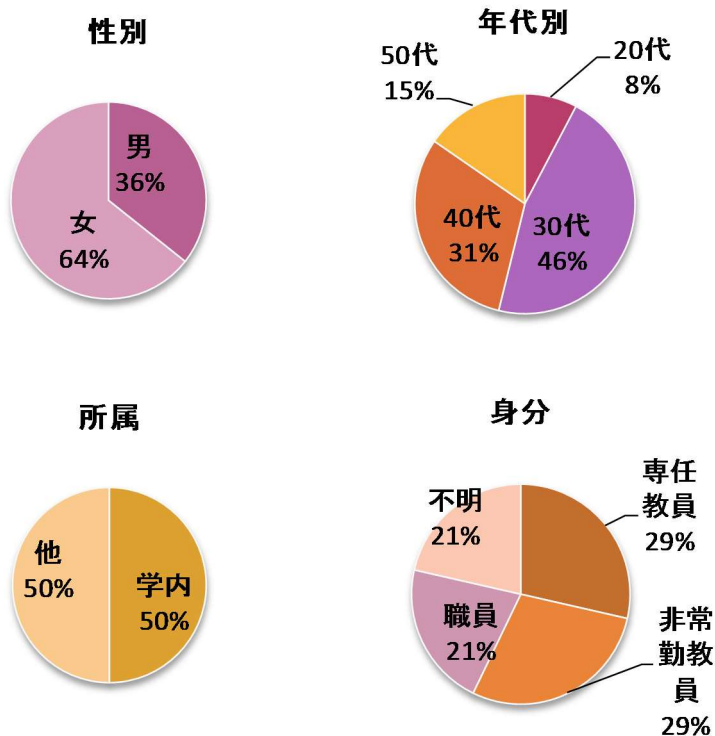
4. 大学教職員のための日本語 講座と受講者の概要

「大学教職員のための日本語 Japanese for Faculty and Staff」の概要は次に示すとおりですが、併せて受講者の属性をまとめてあります。全部で14名と母数が少ないので、あくまで参考程度ですが、男女比では女性のほうが多く、年代ではやはり30代、40代が目立ちます。半数以上が教員であり、日本での教歴があまり長くない人と推測されます。本学の教職員は部局を通して告知がなされ、受講

料の優遇などもあるため動機は明白ですが、半数を占める他校の方は、口コミなどで知ったというほか、どこから情報を得ているのかは正確には把握できていません。

大学教職員のための日本語講座 受講者属性

(2015-2016年度実績)



◆大学教職員のための日本語 Japanese for Faculty and Staff 概要

開講日 2017/10/10 から 指定火曜日 18:45~21:00 全8回

講師 小林功治 (上智大学言語教育研究センター講師)

【講師からのメッセージ】

Motivated students, a passionate instructor and a relaxed atmosphere. It is an ideal combination for an excellent language class. Please know your purpose, make persistent efforts, show an attitude of cooperativeness, and always keep your sense of humor. I will always be here to help you. Enjoy learning Japanese!

【Contents/学習内容】

This course provides faculty and staff members of universities with essential Japanese skills to establish and maintain good communication with their colleagues and students. The primary aim of this course is to develop the participants' ability to understand spoken and written Japanese and to use it appropriately in the context of the academic work environment.

【Method/学習方法】

In each class the participants are required to:

- ・ Listen to dialogs and understand the gist of the conversations
- ・ Learn basic strategies, structures, words and phrases to meet the aims of communication
- ・ Practice with oral drills in order to successfully engage in conversations
- ・ Read and understand samples of emails, forms, memos and agendas for meetings
- ・ Learn words and phrases that are frequently used in academic-related documents
- ・ Submit writing assignments (optional)

【Mode/学習形態】

Lectures, listening tasks, reading tasks, oral tasks and activities, quizzes, writing assignments.

Instructions and explanations are given in simple Japanese and/or in English.

【Goal/受講者に期待する達成レベル】

At the end of the course the participants will be able to:

- ・ Understand and engage in conversations with their Japanese colleagues and students
- ・ Read, understand and respond to common emails and other documents written in Japanese
- ・ Understand and complete required forms such as applications, invoices and requests of purchase

【授業計画 Teaching plan for each class】

1) 導入／教員が教室で使う重要表現

Introduction / Important expressions for teachers in the class

2) 教員が教室で使う重要表現

More expressions for teachers in the class

3) 教職員間のやり取りで使う重要表現

Important expressions for communication among coworkers

4) 教職員間のやり取りで使う重要表現

More expressions for communication among coworkers

5) 学生対応で使う重要表現

Important expressions for communication with students

6) 学生対応で使う重要表現

Important expressions for communication with students

7) 一般的な話題を扱う時に使う表現

Expressions for general topics

8) 追加表現

Additional expressions

5. 課題と展望—大学間共通のプラットフォームとして

担当の小林講師によれば、シラバスに記載のあるとおり、当初は学生への対応とともに、同僚とのやりとりなど、日常的なコミュニケーションを円滑にするようなレッスンを想定していました。テキストも、ビジネス日本語の教材をあらかじめ指定していたのですが、実際に受講者に話をきいてみると、大学内で使う書類の読み方や書き方、具体的には学事日程など学事教務に関する用語解説を知りたいという声が多かったといえます。

そこで2016年度の講座ではテキストの使用をやめ、内容を大学仕様にアレンジしたハンドアウトを作成し、レベルも初中級以上と指定しました。しかしそれでも、受講者のレベル——日本語、在日キャリア、教職員としてのキャリアなど——にばらつきがあり、全員が満足できるようなカリキュラムを設定するのはなかなか難しいというのが実状です。

職員と教員では当然目的が異なりますし、同じ教員であっても、教える内容や指導法、クラスの構成が異なっていれば、コミュニケーションのスタイルも変わってきます。今のところ受講者が7、8名なので、できるだけひとりひとりの希望に応えられるよう努力しているとのことですが、逆にこのような授業を望む立場の方々に、どのようなニーズがあるのか詳しく知りたいという要望が、講師からは寄せられています。

2017年5月1日現在、本学の外国人学生は1,593人で全学生の11.5%（ノンディグリー生を含む）、外国籍の専任教員は84人で全体の15%に相当します。さらに、スーパーグローバル大学創生支援事業では外国で学位取得した日本人教員や外国で1年以上教育研究歴がある日本人教員を含めた数値目標が設定されており、昼休みを利用した外国人教員による「Teaching in English」講座も、FD委員会の主催で毎月開かれるようになりました。

上智大学の外国人学生数(ノンディグリー生を含む)

(2017年5月1日現在)

	学部	大学院	合計
アジア	714	397	1,111
アフリカ	5	21	26
オセアニア	17	7	24
ヨーロッパ	118	48	166
中近東	5	8	13
中南米	27	15	42
北米	181	30	211
合計	1,067	526	1,593
全体に占める割合	8.5%	39.5%	11.5%
全体	12,575	1,332	13,907

参照元: 上智大学統計資料

http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/data/statistics_2017

外国人教職員のための日本語講座は、これに比べてまだ端緒についたばかり、手探りの状態である

ことは否めません。しかしながら、グローバルキャンパスの実現において確実に必要な人材を獲得するために、研修プログラムの充実が各大学共通の課題であることも確かです。

対象者がまだ限られている中で、きめ細かいプログラムが実現できるとすれば、各校がニーズを出し合い、受講者を集めるのが最も現実的なソリューションでしょう。いわば、FDの共通プラットフォームとして使える講座を組み立てることができれば、クラスを恒常的に回していくことが可能となり、ノウハウも蓄積・共有されます。そのような意味からすれば、社会人を対象とし、正規のカリキュラムに縛られない公開講座という形式は、きわめてリーズナブルであるかもしれません。

大学の開放は、大学間の開放でもあります。第3回の講座は、ちょうど申し込みを受け付けているところですが、関心をお寄せくださる方がありましたら、ぜひご一報ください。貴学のニーズやアイデアをお聞かせいただきながら、次へのステップを進めることができれば幸いです。

◆インフォメーション

「大学教職員のための日本語 (Japanese for Faculty and Staff)」

2017年度秋期講座 2017/10/10 から 指定火曜日 18:45~21:00 全8回

問い合わせ：上智大学公開学習センター

http://www.sophia.ac.jp/jpn/otherprograms/c_college

TEL:03-3238-3552 FAX:03-3238-4310